

NPO 法人ばおでの活動を通して

社会福祉学部社会福祉学科 2年 柳 侖亨

活動先：NPO 法人 ばお

クラス：野尻 紀恵 先生

1. SL を通しての自分の成長と気づき

SL のゼミを見つけた時、SL のゼミではどういう目的や目標を持ち、サービスを提供する側として実践にどう活かすのかを身につけたかったため、SL のゼミに所属した。

3 月末頃に大学で予定されていたバスツアーは、都合により参加出来なかったため、各 NPO 法人の概念や特徴を知ることが出来なかった。そのため、どの分野の NPO 法人で活動をしたら良いのか分からなかった。授業で配られた各 NPO 法人の概要をみて、「子供の分野にしてみよう、きっと接しやすくだろうから活動も順調に出来るだろう」と単純に思いながら NPO 法人ばおを選択した。

事前訪問する前に「不登校の子供たち」という概念に注目してしまったせいか、内面ではとても緊張をしていた。事前訪問した際に、ばおの代表の方から子供の特徴を聞かせて貰うことが出来た。あまりにも緊張したせいか、“子供たちは外国人を恐れるのではないか”といった質問をしてみた。代表の方は、“むしろ外国人を好んでいるよ”と嬉しい返答を頂くことができ、緊張していた心が少し和らいだ。そして、このような返答を頂いたことで、もっと子供たちと仲を深められると確信を持つことが出来た。

夏休みを活用して「子供たちと楽しめる企画を作ろう」と同じ活動先のメンバーと話し合った結果、「勉強会」・「運動会」・「散歩会」といった計画を立ててみた。

ばおの計画は、私たちが立てた計画とは違っていた。ばおでは、自然の中で作業に取り組む計画を立てていたのだ。そこで、代表の方が計画を立てていた通りに、私たちも子供たちと一緒に作業に取り組むことにした。

事前訪問で助言をもらったことを生かして、6 日間子どもと仲良くなろうと考えていた。活動初日に、私が外国人であることを紹介したら子供たちから関心を寄せて貰えた。

しかし、自分から言葉を発することが出来なく、子供と上手く会話のやり取りをすることが出来なかった。不登校の子供たちでこそ、コミュニケーションが取りにくいと自分の内面に偏見を持っていることと同時に、不登校をしている子供たちは、引きこもりがちな傾向が強いと思っていたからだ。また、世間を知らなさ過ぎといった考えさえも、自分の内面に属していた。偏見を持ち過ぎていたことから、活動中に子供たちと仲良くなれるだろうかと改めて不安を抱えてしまった。

しかし、活動の中で自分の価値観に変化が表れてきた。それは、不登校の子供たちであっても、世間を良く知っていることに気づかされたのである。自然の中で体験して子供の人格を変えることを目標にするという活動で重要視される「協働作業」の目的を学べたのである。このように、働くという意味を子どもと一緒に見つけることが重要だと代表の方から教えられていた。6 日間の活動期間の内、5 日間は、子供たちと一緒に「協働作業」を目指す日々で活動を行っていた。

活動初日は、作業をしていくうちに分からないことがあれば教え合っている子供の姿に

驚かされた。自分自身も作業していくうちに、子供から分からないことを教えてもらえた事もあった。そのことによって、子供たちと少しずつコミュニケーションを取ることができ、仲を深めることも出来た。

活動の記録を全体的に振り返ってみると、活動の後、代表の方から「子どもと一緒に興味を見つけて仲を深めることが大切だ」と提言を頂いたことがあった。正直、「興味を見つける」という言葉の意味が分からなかった。その言葉を訳してみると、“コミュニケーションを通して同じ共通点を見つけよう”といったことを耳に聞こえたように感じたのである。活動中は、暑い天気が続いている中で作業に取り組んでいるうち、肉体的に疲れがたまり、限界を感じていたことがあった。子供たちも疲れている様子であったが、作業が完全に完成するまで根気があるらしく、真面目に取り組んでいる姿を見た時、子供の根気ある行動力に驚かされた。一つの作業を完成させる目的で行った6日間の活動であったが、最終日にやっと作業が完成した時は、子供たちと喜びと達成感を分かち合える事が出来た。活動が終わった時、1人の子供に大きな夢を持っていると話をした際、「子供も毎日頑張っている」ということを聞き、活動を通して初めて知らされた。

活動最終日には、子供たちと「キムチチヂミ」、「豚肉カレー」、「鶏肉カレー」を作るチームに分けて、楽しい時間を過ごした。鶏肉カレーを作った時は、生きた鶏をさばく体験をし、命の大切さ（生きている感謝を感じることに気付かされた。韓国の料理を作っているうちに、子供に美味しく食べてもらえるのか不安を抱えていた。しかし、子供から「美味しい」という言葉を貰ったり、もっと韓国の興味を深められたりすることができ、不安な気持ちが喜びの気持ちに変わった。

夏休みに行われていたSLの活動を振り返ってみると、もっと積極的に子どもたちに対して、関心や関わりを持っていれば良かったのではないかと未だに思っている。不登校の子供たちであるからこそ、コミュニケーションが取りにくいという偏見を持っていた私自身が情けないと思いつつ、そういう偏見を取り除く必要があると反省した。

6日間の活動は、大変ながらも、「協働作業」の目的に気付くことが出来た貴重な体験をさせて頂いた日々であった。今後、地域の活動に参加する時にも、1年間のサービスマンニング授業で学んだことを活かして、地域の活性化に貢献したいと思った。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動について

夏休みに活動をさせて頂いたNPOはおから見えてきた地域活動は、NPOはおの代表の方が一人で経営管理し、他のNPOの団体とも連携を良く取り合って活動していることが分かった。今後どのように人員を増やしていくかが重要な課題であろう。